

ボランティアステーションの活動記録 No.3

【トピック 1】 6月15日・7月2日

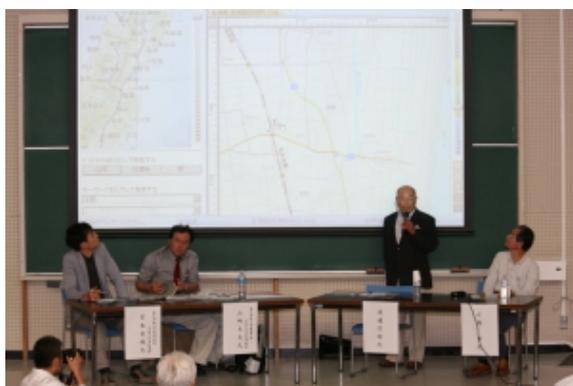
教育的プログラム「サバイバーズ」を開催

「日々復旧が進む毎日の中で、震災の記憶を風化させてはならない。今なお復旧に取り組む人々のそばに寄り添うことが大切」と企画された今回のシリーズ。震災により過酷な経験をするを余儀なくされた一般市民の方や学生、さらに被災地域において復旧・復興に尽力されてきた方をお招きし、震災時の経験やその後の生活、加えて、地域の状況や必要な支援などについてうかがうという教育プログラムが始動した。

6月15日（水）、本学ボランティアステーション主催の「サバイバーズ」第1回を開催。被災された亘理町在住の七海勇氏、渡邊信秋氏、2名をゲストに迎え、震災時のリアルな体験談と、これからのまちづくりについてお話いただき、聴講した約150人の学生らは息を吞んで聞き入っていた。

第2回は、7月2日（土）泉キャンパス2号館で開催。スピーカーには石巻で被災された牧野照夫さん（石巻市雄勝町地区会長）と牧野輝義さん（市北上総合支所職員）を迎えた。

震災は私たちに自然が剥き出しの力を示したとき人の命があまりにも脆いことを教えた。この命の脆さに目を凝らすことを通して、震災にどう向き合うのかを、いま一度、考える機会になったと好評だった。



6月15日に開催された第1回 サバイバーズ